

**教務系職員としての実践知を増やそう
— 学びを促す学生対応とは何かを考える —****■講師**

竹中 喜一（関西大学 学事局授業支援グループ 教学IR室・教育開発支援室 主任）
平成16年3月大阪大学人間科学部卒業後、民間企業でのSEや営業支援の業務を経て、平成20年関西大学入職。学生による教育・学習支援制度の設計・運用、ICT活用支援、FD、SD、教学IR等を担当。また、現職在職中に名古屋大学で高等教育論を専攻し、修士（教育）の学位を取得。現在は大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程で教育工学を専攻中。

■プログラム概要

「何を教えたか」より「何を学んだか」が重要視される現在において、職員にも学生の学びを促す役割が求められています。この研修では、教務・学務系職員が窓口で対応しうるサンプルケースを用いて、どのようにしたら学生の学びを促せるかを受講者とともに考えていきます。通常、教務・学務系職員は正課の学びに関することを取り扱いますが、ここでいう学生の学びとは、正課外の学びを含みます。

本研修ではまず、「どのようにしたら学生に学びを促せるか」という問いを考えるにあたっての、基礎的な知識や態度を講義等で確認します。次に、グループワークを通じて、各大学の教務・学務系職員の学生対応の現状と課題を共有します。その後、サンプルケースを題材に、望ましい学生対応について考えていきます。最終的には、自大学での学生対応において今後も継続すべき点や改善可能な点とは何かについて、受講者が新たな気づきを得ることを目的としています。

■準備物や事前課題

所属大学の教務・学務系職員の学生対応において、すぐれていると思う点と、課題だと思っ
た点をあらかじめ整理しておいてください。

■主な受講対象

教務・学務系部門が取り扱う内容（履修や休学・退学など）について学生対応を行う職員。
特に、学生対応の経験が1～3年目程度の職員を想定した内容にしています。それ以上の経験年数を持つ職員の参加も可能ですが、グループワークのファシリテーター等をお願いする場合があります。また、教務・学務系部門の能力育成に関心のある方の参加も歓迎します。

■本プログラムの到達目標

1. 学びを促す学生対応に必要な知識や態度とは何かを説明できる。
2. 学生対応において職員としてできることを具体的に説明できる。
3. これまでの学生対応を振り返り、今後継続すべき点と改善可能な点を発見できる。

■日時・場所

日時：平成29年8月25日（金）10：00～12：00

場所：徳島大学常三島キャンパス